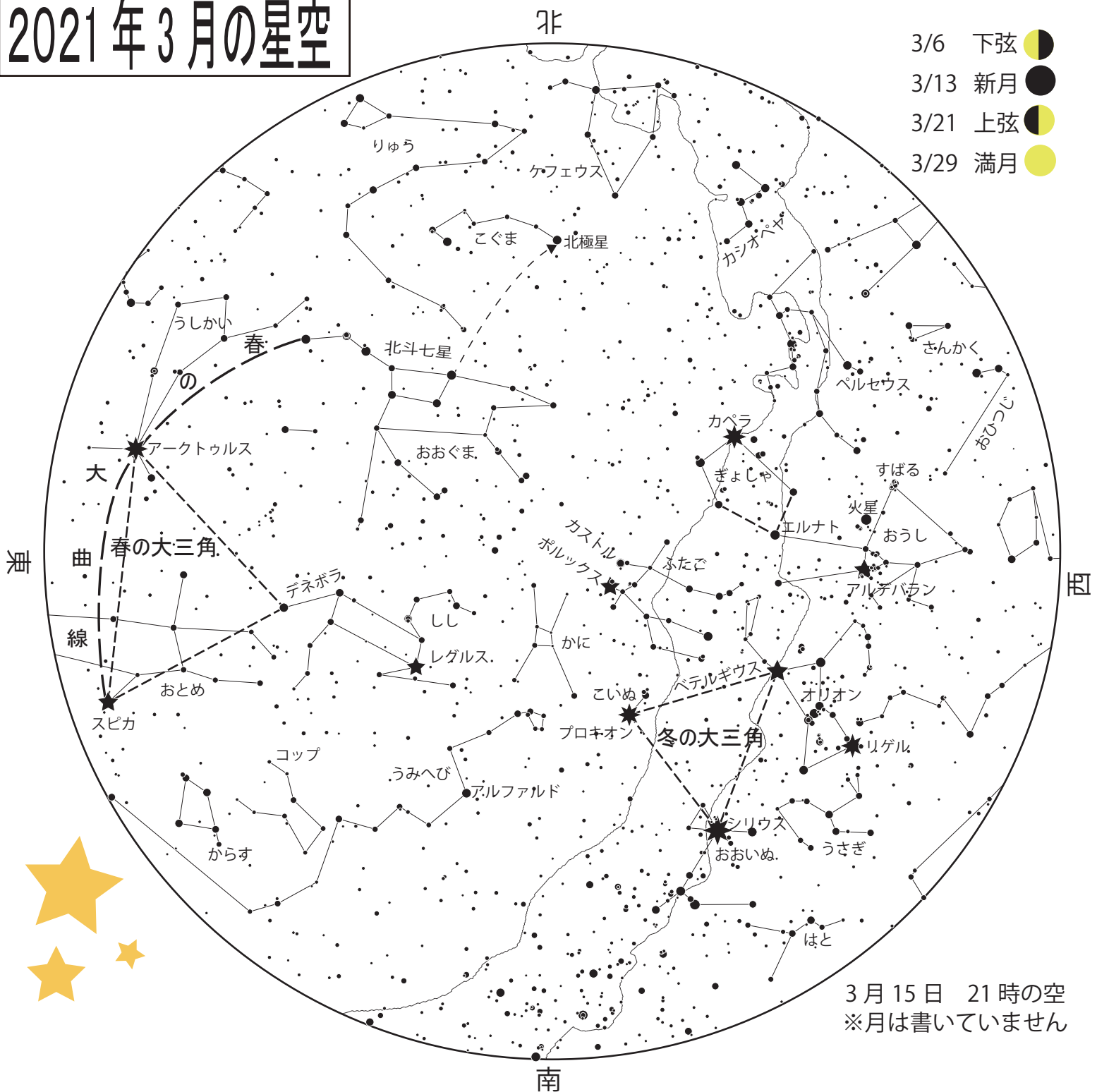


# 姫路で見る 2021年3月の星空

図の中心が頭の真上(天頂)、まわりの円が地平線です。  
この星図は見ている方向の方位を下にしてください。

- 3/6 下弦 
- 3/13 新月 
- 3/21 上弦 
- 3/29 満月 



3月15日 21時の空  
※月は書いていません

西の空には、冬の星がまだ見えます。オリオン座や冬の大三角(ベテルギウス、シリウス、プロキオン)を目印に、1等星たちを順に確かめてみましょう。冬のはじめ頃と見える方角が変わって、星や星座が違ったものに見えるかもしれませんが、星の明るさや色を頼りに探してみてください。

東の空には春の星座がそろいました。北東には、北斗七星が目印のおおぐま座、南東には、?を裏返した形が目印のしし座が見えます。北斗七星は柄杓の形をしていて、北極星を探す手がかりとしてよく知られています。柄杓の先の2つを線で結んで伸ばした先に、北極星が見つかります。北斗七星から東に続くカーブが「春の大曲線」です。カーブを伸ばすと、うしかい座のアークトゥルス、おとめ座のスピカが見つかります。この2星と、しし座のデネボラを線で結ぶと春の大三角になります。また、?の点の部分にあるのが、しし座の1等星レグルスです。しし座は百獣の王・ライオンの星座であり、レグルスとは「小さな王様」という意味です。

肉眼で見やすい惑星は火星のみとなりました。火星は3月中旬から4月中旬にかけておうし座を移動中です。火星とおうし座のアルデバランはどちらもオレンジ色ですが、オレンジ色に見える理由はそれぞれ異なります。見比べてみると面白いかもしれません。